

企画書

申請日	20XX年X月X日
イベントの名称（案）	スライド作成活用講座
開催予定日	20XX年X月XX日・XX日（全2回連続講座）
開催場所	Zoomを使用
主催者名	本郷花子
所属・職	東京大学経済学研究科博士課程2年
共催団体名および協力者名（あれば）	駒場太郎（東京大学人文社会系研究科博士課程1年）
申請担当者名と連絡先 （主催者と同じ場合は記入不要）	
<p>【イベント開催の意義】</p> <p>学会発表では基本的に議論の内容や正当性が問われるため、それを補助するスライドの質が問題の焦点となることは稀である。しかし、企画者はスライドも発表そのものの質を上げるための重要なファクターとなりうると考え、分かりやすく明晰なスライドを作るための注意点を共有したい。また、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン授業の需要が急速に高まっていることに鑑みると、本イベントは教員の授業スライドづくりにも寄与することができると思う。</p>	
<p>【イベントのプログラム・内容概要】</p> <p>スライドに全部載せるには情報過多になりがちな歴史学分野の発表について、クリアに分かりやすく伝えることができるスライドづくりを学ぶ。企画者自身に加え、駒場太郎氏（東京大学人文社会系研究科）をゲスト講師に迎え、ソフトウェアの使い方等技術的知識も同時に習得する。</p> <p>現状のプログラム案は以下の通り。2回に分けて開催し、座学と実践の両方に取り組む。</p> <p>〈事前準備〉</p> <ul style="list-style-type: none">● 参加者のなかから希望者2名程度に、これまで発表で使用したが、出来に満足していないスライドを資料として提供してもらおう（～X月末）● 講師間で改善点とワークショップ内容について打ち合わせ（X月末～X月初頭） <p>〈1日目〉（X月XX日）</p>	

- スライドのbefore/afterを見せながら、以下の論点について議論
 - そもそもその発表にスライドは必要か？
 - 情報の取捨選択とその配置
 - 見る人のことを考える 等

〈2日目〉 (X月XX日)

- 1日目に見た論点を踏まえ、特定のトピックについて分かりやすいスライドを作成
- 講師・参加者全体で講評

想定参加者は10名程度。そのほか、聴講のみメンバーを募る可能性有。

①当該企画案と歴史家ワークショップのこれまでの活動・方針との関連、②本企画を実施することは、主催者と共催者のキャリアにどのようにプラスになるか。

① 歴史家ワークショップでは若手研究者の成果発信スキル向上をその主要な活動の一つとしてきたが、発表のビジュアル面については未だサポートする企画がなかった。このイベントは発表者のスキルアップをより包括的に支援することができると思う。

② 本イベントは若手研究者にスキルアップの場を提供すると同時に企画者にとっても自己のこれまでの発表を振り返る機会となる。「教える」という立場でなく、参加者協働のワークショップという形を取るにより、企画者自身のスライドの質向上にも寄与するだろう。

企画の実施における歴史家ワークショップの関与の度合い

(1) 活動資金のみの提供

(2) (1)に加え歴史家ワークショップ運営委員による企画内容への相談・助言、準備補助、当日の参加、報告書の作成補助などを行うが、全体の進捗管理は申請者が行う。

申請額

約4.5万円

用途 (支出内容と金額; 支出ガイドラインを参照にし、可能な範囲で記載)

- 企画者の賃金 (企画運営10時間程度=12,000円)
- 登壇者への謝金 (事前打合せ1時間+講義1時間=15,600円)
- 参加レポート執筆謝金 (1,200字程度のレポート×2名程度=12,000円)
- 雑費 (5000円)

他財源の種類と金額

該当なし

(該当する場合記入)

* 既定の枠内2ページ以内におさめること。